

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」

放課後子供教室の取組事例

「地域の人材・特色を活かした放課後子ども教室」(岩手県 久慈市)

取組の概要や経緯

放課後や週末等における地域の子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、学習内容の定着と地域コミュニティの充実を目指し実施する。

平成29年4月1日から平成30年2月28日までの期間、放課後、土曜日、日曜日、長期休業中に年間50日程度、地域の小学生を対象に実施している。



琥珀採掘場跡見学・学習



公共バス体験

内容

各市民センターへ配置した放課後子ども教室コーディネーターが、地域のサポーターや学校との調整を行い、市内の各地区市民センター及び小学校などを会場に放課後に1～2時間程度、自学自習形式の学習や工作や実験、調理、スポーツなど様々な体験活動を提供している。

また、長期休業中には、地域住民の協力のもと、市民センターから離れた場所なども利用し、屋外における様々な体験活動も実施している。



敬老の日にハガキを送ろう

ポイント

・教育振興運動研修会と兼ねて放課後子ども教室活動者等研修会を年2回開催し、取組みの参考になる事例や学校・家庭・地域の連携協働した子育ての大切さについて学ぶ機会を設定している。

・サポーター会議を行い、活動内容やシフトなどの情報共有を行っている。

成果

放課後の安全・安心な居場所として定着し、異学年との関わりが増えたことで、上級生は面倒見がよくなり、学年や男女に関係なく遊ぶようになった。そのため、各種活動において高学年が低学年に自然に声掛けをしたり、教えたりする姿が見られるようになってきている。

平日の各種活動の前には宿題を終わらせるなど、学習の習慣化も図られている。サポーターや職員が協力し、特技や地域の特色を生かした活動を実施しており、子ども同士だけでなく、地域の大人との交流もできている。



活動者等研修会

今後の方向性

・事業の充実に向けて、参加する子どもやサポーター、活動場所の確保について、学校や地域との協力体制を深めていく必要がある。